

古河市

KOGA City

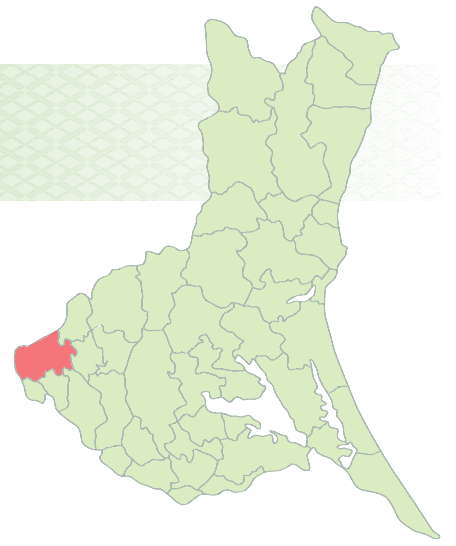
■概要/人口: **140,959人**(令和5年1月時点)

年間観光入込客数: **1,550,500人**(令和3年)

■由来/万葉集で歌われた「麻久良我の許我の渡りのから楫の音高しな寝なへ児ゆゑに」の「許我」(こが)に由来。

■市の花/ハナモモ

- 木/ケヤキ
- 魚/フナ
- 鳥/カワセミ



県の最西端に位置し、栃木県、埼玉県と境を接し、「関東のドマンナカ」を自称する古河市。渡良瀬川、利根川が流れ、水との関わりが深い土地柄でもあります。市の北西に広がる渡良瀬遊水地は自然の宝庫で、ヨシの茂みや湿地が多く、野鳥やトンボ、チョウなどの格好の生息地となっています。そして桃の花などが咲き誇る古河公方公園(古河総合公園)は、自然景観を生かした公園として日本で初めてユネスコの「メリナ・メルクーリ国際賞」を受賞しました。また、古河城出城跡にある歴史博物館や古河文学館、街角美術館などの施設も点在し、散策に訪れる観光客も多く見られます。

観光カレンダー

3月下旬~4月下旬	古河桃まつり
8月第1土曜日	古河花火大会
10月下旬~11月下旬	古河菊まつり
12月第1土曜日	古河提灯竿もみまつり
1月第2日曜日	古河七福神めぐり

鷹見泉石記念館

鷹見泉石が過ごした場所

藩主土井利位に仕えた古河藩士、そして蘭学者でもある鷹見泉石(たかみせんせき)の晩年の住まいです。古河城の余材を使って建てたと伝えられている建物を改修して、平成2年に「鷹見泉石記念館」として開館されました。江戸時代に作られたものとして唯一のヨーロッパ国図「新訳和蘭国全図」など、数々の研究に没頭した住居です。



スポット

古河公方公園(古河総合公園)

桃の名所で知られる

25haにおよぶ広大な自然の中に、四季折々に咲く、美しい花々が訪れる人を和ませてくれる公園。毎年3月下旬から4月上旬にかけて「古河桃まつり」が開催され、多くの観光客が訪れています。平成15年には、ユネスコとギリシャが主催する「文化景観の保護と管理に関するメリナ・メルクーリ国際賞」を日本で初めて受賞しました。



スポット

ネーブルパーク

自然とのみれあい空間

「ネーブル」とは、「へそ」や「中心」という意味。公園が関東平野のほぼ中央に位置することから名付けられたそうです。自然と親しむふれあい型のテーマパークとして、園内には、アスレチック広場、ポニー牧場、地下迷路の遊びが楽しめます。また、工芸館では、陶芸用の絵付けをしたり、粘土から成形する本格的な陶芸を体験することもできます。



スポット

道の駅「まくらがの里こが」



スポット

直売所の野菜を使用したフードコート、地元食材を使って焼き上げたパンなどが楽しめる道の駅。道路情報や季節折々の観光情報などを提供しています。

お休み処「坂長」



スポット

歴史的な価値を有する街の財産として、国の登録有形文化財にも指定。敷地内には歴史を学べるミニギャラリーやホール、資料室、地元の特産品やお土産が買えるお店などがあります。

古河歴史博物館

古河の歴史を垣間見る

古河城出城跡(諏訪曲輪)に平成2年に開館。平成4年の日本建築学会賞、平成8年の公共建築賞を受賞しています。古河藩主である土井利位が雪の結晶の研究を著した「雪華図説」をはじめ、家老鷹見泉石が収集、研究した蘭学資料などを展示しています。また、ホールにはオランダの楽器ストリートオルガンがあり、異国の音色を楽しむことができます。



スポット

古河文学館



スポット

直木賞作家で歴史小説家の「永井路子」をはじめとする古河ゆかりの作家の作品や、児童文学史に大きな足跡を残した絵雑誌「コドモノクニ」の原画など、数々の貴重な資料を展示。

篆刻美術館



スポット

平成3年に日本初の篆刻専門の美術館として開館。館内には、古河出身の生井子華の遺作をはじめ、小林斗盞、梅舒適など日本を代表する現代作家の作品を常時展示しています。

古河桃まつり

古河を代表するまつりの一つ。江戸時代初期に古河藩主の土井利勝が江戸で家臣の子どもたちに拾い集めさせた桃の種を古河に送り、農民に育てさせたことに由来します。古河公方公園(古河総合公園)の開園を機に、園内に花桃を植樹し、桃林を復活させました。園内には、「矢口・源平・菊桃・寿星桃・寒白」の5種類の花桃が約1,600本あり、期間中は鮮やかなピンク色で染まります。また、まつり期間中は園内では飲食の店、郷土物産品の販売、野点などもあり、さらにステージなどで様々なイベントが開催され、毎日古河桃むすめが来場者を出迎えてくれます。



イベント

古河花火大会

打ち上げ数2万発で、関東では最大級の花火大会です。直径約90cmの大宝を打ち上げる三尺玉のほか、ワイドスターメイン、メロディー付きスターメイン等の花火は見所満載。河川敷のゴルフ場で打ち上げられるため、堤防から鑑賞することができます。また、ゴルフ場の奥にはラムサール条約に登録されている渡良瀬遊水地の雄大な自然が広がっています。



イベント

見どころは圧巻の三尺玉

古河提灯竿もみまつり

市内の参加団体が20m近い竹竿の先につけた提灯を激しく揉み合いながら、相手の提灯の火を消し合う祭りで「関東の奇祭」といわれています。昔から参加者は、「今夜べえだ、今夜べえだ」という掛け声で、祭りに参加しました。「楽しみ羽目をはずしていいのも今夜だけ」という意味です。現在は、古河の冬の風物詩として開催されています。



イベント

関東の奇祭

鯛の甘露煮



グルメ

川沿いの古河の伝統的な料理で、カルシウムなどの栄養も豊富な「鯛の甘露煮」。食文化として、古くから古河市民には親しまれてきた味で、古河ブランドにも認定されています。

常陸秋そば



グルメ

古河市にある「森ファーム」の常陸秋そばは、そば打ち名人の高橋邦弘氏が太鼓判を押すほど。新そばは、11月の秋そばに加え、7月の春そばと年2回の栽培・収穫が行われます。

農林水産大臣賞受賞

古河ブランド

市内の産品の中で、特に優れたもの、安心・安全・高品質な商品として「古河ブランド」として認証されています。渡良瀬遊水地に飛来する白さぎの卵をイメージした、ほんのりミルク風味の「しら玉」。こだわりの手焼きで焼き上げ、古河市出身の篆刻家の生井子華の篆刻文字「許我」の焼き印を一つ一つ手押しした「許我どら焼き」など計24品目あります。

古河を代表する逸品



お土産

バラ

県内有数のバラの産地であり、ロックウール(水耕栽培)の導入により通年出荷を行うとともに、多品種構成により高品質なバラを生産しています。令和元年に開催された「第62回日本ばら切り花品評会」において、古河市の生産者が出品したエンジェルキス+(プラス)がグランプリとなる農林水産大臣賞を受賞し、令和2年2月の天皇誕生日に、受賞したバラを献上しました。



お土産

古河の和菓子



お土産

城下町古河には、古くから和菓子の店が多くあります。クリームをサンドした風味ある薄焼きせんべい「渡良瀬八犬伝」をはじめ、「古河ブランド」にも3店舗が登録されています。

地酒



お土産

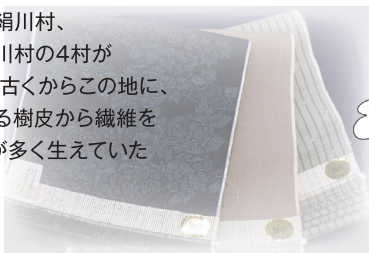
古河市唯一の酒蔵青木酒造が作る清酒「御慶事」。三代目当主が「最高のよろこびごと」という意味で「御慶事」と命名。古河で唯一の地酒として地元をはじめ、広く愛飲されています。

結城市

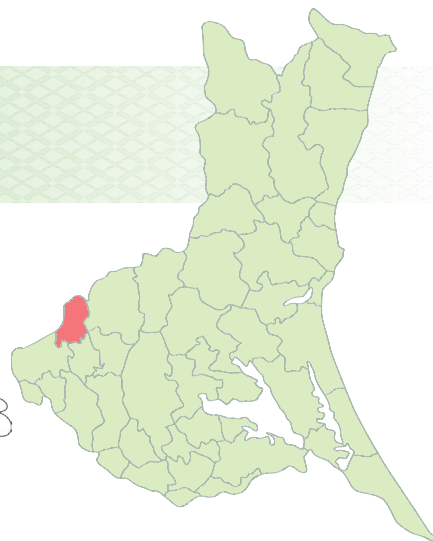
YUKI City

■概要/人口：**50,349人**(令和5年1月時点)
年間観光入込客数：**377,200人**(令和3年)

■由来/昭和29年、結城町に絹川村、上山川村、山川村、江川村の4村が編入して市制を施行。古くからこの地に、木綿(ゆう)と呼ばれる樹皮から繊維をとることができる木が多く生えていたことが地名の由来。



まゆげった



■市の花/ユリ
木/桑

県の西部に位置し、ほとんどが平坦な土地で、北側、西側は栃木県です。東は鬼怒川によって、筑西市と隔てられており、独自の発展を遂げました。結城紬や桐たんすなど独特の伝統工芸品が有名。結城紬は、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。また、平地林を開いた田畑では、白菜やレタス等農作物の生産に恵まれています。関東でも有数の歴史を誇る城下町で、神社や仏閣が集中し、見世蔵など歴史的な蔵造りの街並みは、貴重な文化遺産となっています。

観光カレンダー

2月下旬	ゆうき物産まつり
4月上旬	結城さくらめぐり
7月中旬	結城夏祭り
10月下旬	祭りゆうき
11月中旬	きものday結城

つむぎの館

ユネスコ無形文化遺産に登録された本場結城紬の総合ミュージアム。総合案内や紬小物販売の「結の見世」、染め折り体験のできる「織場館」などが併設されています。



スポット

結城紬が身近に感じられる総合施設

見世蔵の街並み

結城市北部市街地には、結城市を代表する建築物「見世蔵」などの蔵造りを見ることができます。明治初期から大正期に建設された蔵造りの建物が、現在も細間屋や老舗の商店などで利用されています。最近では蔵をイノベーションしたカフェも営業しています。



スポット

伝統的な工法の建築物

結城蔵美術館



スポット

本市の新たな芸術文化を創造、発信するスポット。天下三名槍の一つ「御手杵の槍」のレプリカを展示。2023年には結城秀康展を開催し、刀剣乱舞ONLINEとコラボレーションし、話題となりました。

きもの day 結城



イベント

結城紬だけでなく、思い思いの着物を着て北部市街地を中心に散歩するイベントです。人力車乗車会他、結城紬の反物や地酒が当たる抽選会が行われます。

ゆうき物産まつり



イベント

北部市街地を中心に開催される、本市の物産品を使った体験型のイベントです。主に味噌づくりやキムチづくり、まゆ工芸製作や手織り体験を行っています。

祭りゆうき



イベント

市内外から様々なジャンルの踊りの団体が集結して行われる市内最大のお祭りです。さらに多くの物産品や伝統工芸品の展示もあって、多くの来場者で賑わいます。

本場結城紬

昭和31年に国の重要無形文化財、平成22年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。糸つむぎ、緞くり、地機織りといったすべての工程が手作業で行われるため、軽くて温かいのが特徴です。着物に限らず、ショールや財布、名刺入れなど様々な製品にも使われています。



お土産

ユネスコ無形文化遺産に登録

ゆでまんじゅう

結城の代表的な饅頭で、もちっとした食感が人気です。昔、はやり病が広まった時に当時の殿様が病払いに民衆にふるまったのが始まりと言われています。現在、市内で販売されている店舗によって、見た目や味が違うので、食べ比べをしてみるのも◎。



お土産

結城伝統名物まんじゅう

県北エリア

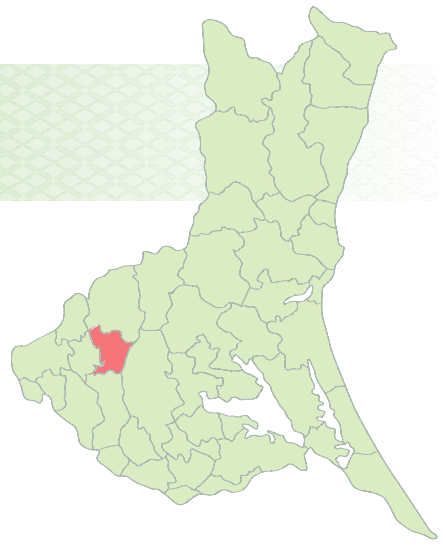
県央エリア

県南エリア

県西エリア

下妻市

SHIMOTSUMA City



シモンちゃん

■概要／人口：**41,768人**(令和5年1月時点)

年間観光入込客数：**1,348,200人**(令和3年)

■由来／地名の由来には諸説あるようですが、承平5年(935)の『和名抄』に歴史上はじめて「しもつま」と記されました。現在の市名「下妻」と漢字になったのは、鎌倉時代以降といわれています。

■市の花／菊
木／松



東に小貝川、西に鬼怒川が流れ、その間にある市街地は北から伸びる洪積台地の末端となっています。小貝川沿岸の低地は「万葉集」に読まれた鳥羽の淡海跡で、水田地帯となっています。主な観光スポットは、茨城百景に選定されている「砂沼」や関東最古の八幡さまの「大宝八幡宮」などがあります。また、鬼怒川や小貝川沿いでは水辺に親しむイベントが開催され、水と緑に親しむ環境が整っています。そして、下妻市は県内有数の梨の産地。若手有志が生み出した品種には、甘くてみずみずしい「甘熟梨」などがあります。

観光カレンダー

4月上旬	多賀谷時代まつり
5月中旬	花とふれあいまつり/鬼怒川流域交流Eポート大会
5月下旬	小貝川フラワーフェスティバル
8月上旬	下妻まつり(千人おどり・砂沼の花火大会)
10月中旬	下妻砂沼フェスティバル

大宝八幡宮

関東最古の八幡さま

大宝元年(701)、藤原時忠公が筑紫(つくし)の宇佐神宮を勧請創建したのが始まりです。天台宗の古い経文の奥書に「治承三年(1179)己亥七月二十二日の未時書了於常陸州下津間八幡宮書了兼智」とあるため、平安末期にはすでに八幡信仰が盛行していたことがわかります。「吾妻鏡(あづまかがみ)」に下妻宮(しもつまのみや)と記され、文治5年(1189)、奥州征伐達成の際、源頼朝公が鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請し摂社若宮八幡宮を創建されました。



スポット

さん歩の駅サン・SUNさぬま

砂沼の景観を活かした観光拠点

中心市街地の新たなにぎわい拠点。2Fカフェレストランでは、茨城百景「砂沼」の美しい景観を眺めながら地元食材を使用したメニューや人気のスイーツなどを楽しむことができます。また、1F観光物産販売所では、市内・県内特産品が揃い、なかでもオリジナル商品「下妻甘熟梨フィナンシェ」は、新たな地元土産品として注目の商品です。平成30年、この施設を含めた砂沼周辺地区の都市再生整備計画事業が、第13回まち交大賞の「国土交通大臣賞」に選ばれました。



スポット

ピアスパークしもつま



温泉、ホテル、体験農園など、自然と触れ合い人々が交流できるリフレッシュビレッジ。疲労回復等の効果がある「しもつま温泉」では、日帰りでも癒しのひとときを過ごせます。

小島草庵跡



親鸞聖人が越後流罪と滞留7年の後、建保2年(1214)、妻子を伴って常陸国に入り最初に居住したのが、小島草庵といわれています。草庵跡には「四体仏」と呼ぶ五輪塔と「稲田恋しの銀杏」の大樹があります。

江連用水旧溝「宮裏両樋」



宗任神社の裏手にある宮裏両樋。全国に数ある登録文化財の中でも珍しい農業施設としての登録です。明治33年に設けられた灌漑用の分水施設。レンガ作りの歴史的にも貴重な施設です。

WaiWai ドームしもつま



Waiwaiドームしもつまは、全天候型の屋根付広場(1,800㎡)、フルコンクリートのスケートボード広場、ボルダリングや未就学児向け遊具などを備えた、多世代多目的に利用できる、まちなかにぎわい広場です。

鬼怒川流域交流Eポート大会



“川を活かした新しい文化の創造”を目的に開催され、毎年熱い戦いが繰り広げられます。Eポートは、10人乗りの手漕ぎボートで、誰でも(everybody)、簡単に(easy)、楽しむこと(enjoy)、ができます。

下妻甘熟梨

県内有数の梨の産地である下妻市のオリジナルブランド梨。地元若手生産者が土づくりから圃場を見直し、梨づくりを再構築。通常115日前後で収穫するところを125日前後まで樹熟させてから収穫します。梨は高血圧や便秘にも効果があることに着目。健康にも良いことをPRし、規格外の梨で関連商品として「梨のリキュール」や「下妻甘熟梨のフィナンシェ」といったお菓子にも加工販売されています。



お土産



下妻市のオリジナルブランド梨

県北エリア

県央エリア

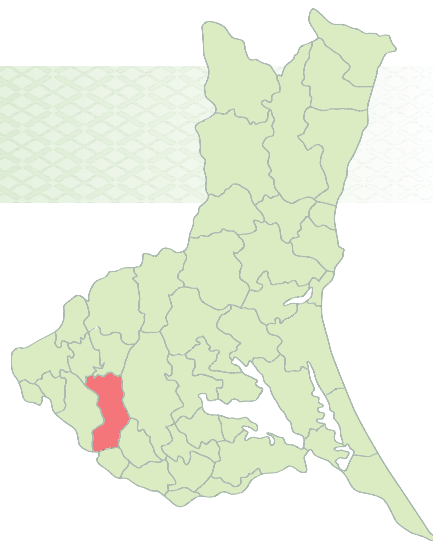
鹿行エリア

県南エリア

県西エリア

常総市

JOSO City

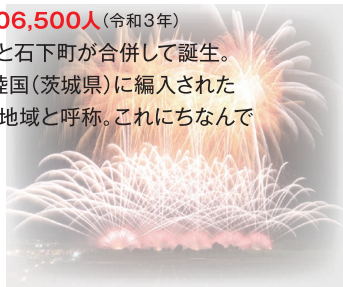


■概要/人口：**59,711人**(令和5年1月時点)

年間観光入込客数：**106,500人**(令和3年)

■由来/平成18年に水海道市と石下町が合併して誕生。旧下総国の北部が常陸国(茨城県)に編入された地域であるため、常総地域と呼称。これにちなんで常総市と命名。

■市の花/サクラ
木/カシ
鳥/ウグイス



千姫ちゃま

茨城県の南西部、都心から55km圏内に位置しており、東はつくば市・つくばみらい市、西は坂東市、南は守谷市、北は八千代町・下妻市にそれぞれ接しています。気候は太平洋型の気候であり、四季を通じて穏やかです。中央部を貫流する鬼怒川が市のシンボルで、江戸時代を通してその水運により発展した地域です。カシなどの照葉樹が自然林を形成し、屋敷林として防風・防災のために生垣として利用されている光景がみられます。

観光カレンダー

5月中旬	常総千姫まつり
8月15日	常総将門まつり
9月中旬	大塚戸のからくり綱火
10月中旬	常総きぬ川花火大会
未定	常総ふるさとまつり

弘経寺

千姫の遺愛の品々を保存

徳川家康の孫「千姫(天樹院)」の菩提寺として有名。遺骨を納めた墓をはじめ、姿絵や袷袢など愛用の品々が保存されています。花の寺としても有名で春は桜、秋は曼珠沙華(ヒガンバナ)が境内を彩ります。



スポット

水海道土博物館 坂野家住宅



スポット

主屋と表門(薬医門)が国の重要文化財に指定されています。主屋の離れとして造られた書院(月波楼)は、大正期の近代和風建築として貴重です。平成13年から水海道土博物館として一般公開しています。

豊田城(地域交流センター)



スポット

1,100人収容のホール及び図書室と地域の歴史を紹介した展示室からなる施設として平成4年に開館し、平成30年にデジタルコンテンツを取り入れた展示施設としてリニューアルオープンしています。タブレット端末によるAR機械も設置し、市内の防災情報を確認することができます。

長塚節の生家



スポット

長塚節は、正岡子規の門下生アララギ派の代表歌人で、農民文学の不朽の名作小説「土」の作者です。生家は、茨城県の史跡に指定されており、書院のみ見学ができます。

常総きぬ川花火大会



イベント

常総市の夏の風物詩として市民から長年親しまれてきました。平成20年から名称を現在の「常総きぬ川花火大会」と改称し開催しています。1万発の花火は圧巻です。

常総千姫まつり

千姫さまの生誕を祝うお祭り

常総市の心意気をまつりという手段で広く県内外にアピールし、地域の活性化を目的に始めました。千姫のお墓が常総市の弘経寺にあることから、水海道千姫まつりと同日に弘経寺では天樹祭を開催。観光大使千姫さまが墓参りに訪れます。時代衣装に身を包んだ女性主体の一行がまつり会場内を回遊します。



イベント

地酒

常総市の日本酒

日本酒の蔵元が3軒あります。山中酒造店は、創業200余年。酒銘「一人娘」は、大切な一人娘を育てるように真心を込めて作り上げた清酒。野村醸造は、明治30年創業。味ののった濃厚な味わいが特徴の「細美人」は、無添加で米の持つ旨みを最大限に引き出した逸品。竹村酒造は、清酒「京の夢」「富士龍」「瑠璃」を醸造・販売し、260年の歴史があります。



お土産

せんべい

それぞれのお店の味が楽しめる

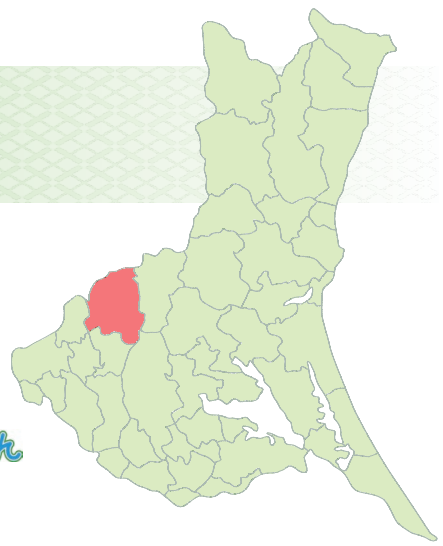
煎餅店も数多くあり、桜井煎餅店は、天日乾燥した生地を丹念に焼き上げており、しょう油の香ばしさがたまらないシンプルな一品。本橋煎餅は、せんべい一筋80年。米の仕入れから製粉、生地づくり、焼き上げまで一貫して行い、店先で一枚一枚丁寧に炭火で焼き上げてます。お店によって味が違うので、それぞれの味が楽しめます。



お土産

筑西市

CHIKUSEI City



■概要/人口: **98,967人**(令和5年1月時点)

年間観光入込客数: **1,145,300人**(令和3年)

■由来/下館市・関城町・明野町・協和町の合併に伴い、新市名称の公募を実施し、協議会での投票で「筑西市」に決定しました。「筑西」は、筑波山の西側に位置することに由来します。

■市の花/ 梨の花(春の花)、コスモス(秋の花)

木/ さくら
鳥/ つばめ



ちっくん

茨城県の南西部に位置し、北は栃木県と接しています。鬼怒川・小貝川・勤行川が南北に流れる肥沃な田園地帯が広がり、稲作のほかに、梨、こだますいか、トマト、いちご、常陸秋そばなどの栽培も盛んです。また、JR東日本、真岡鐵道、関東鉄道の3鐵道が走る交通の要衝として栄え、下館駅周辺には日本近代陶芸の祖である板谷波山の生家や蔵造りの商家など数々の史跡や歴史が残されています。

観光カレンダー

2月14日前後	ダイヤモンド筑波
7月下旬	下館祇園まつり
8月下旬～9月上旬	あけのひまわりフェスティバル
8月下旬または9月上旬	どすこいペア
10月中旬	ちくせい花火大会
10月28日前後	ダイヤモンド筑波
12月上旬	小栗判官まつり

道の駅グランテラス筑西

北関東最大級の道の駅

2019年7月、茨城県内14か所目の道の駅としてオープン。北関東最大級の広さを誇り、複合型「ハイブリッド道の駅」として3世代で楽しめる施設。BBQ施設やドッグラン、カフェにグルメに直売所のほかキッズスペースなども充実しています。また、屋外ステージや芝生広場では様々なイベントを実施。開放的なスペースで筑波山を望みながらみんなが楽しめる道の駅です。

スポット



板谷波山記念館

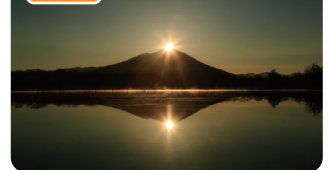
スポット



日本近代陶芸の祖である板谷波山の足跡を伝える記念館。東京都田端の工房で実際に使われていた窯やロク口台、様々な道具など貴重な展示品を見ることができます。

母子島遊水地

スポット



「筑波山ベストビューポイント」に選定された人気のスポット。2月中旬と10月下旬の年2回、筑波山山頂から太陽が昇る「ダイヤモンド筑波」を見ることができ、多くの写真愛好家が集まります。

下館祇園まつり

熱気溢れる筑西の夏

羽黒神社と下館駅を中心に、4日間に渡って行われる茨城県内屈指の夏祭りです。100年以上もの歴史を持つ明治神輿、相殿神・玉依姫の女神輿、毎年担ぎ出される神輿としては日本最大級の重量を誇る平成神輿の他、30数基の子供神輿の渡御が行われます。最終日の早朝には、明治神輿を川に担ぎ入れる「川渡御」の勇壮な光景も楽しめます。

イベント



どすこいペア

イベント



大相撲力士を間近で見ることができる貴重なイベント。会場にはたくさんのお店が並び、朝から晩まで様々な催しが行われます。オリジナル梨カレー・ちゃんこ等の販売もあります。

小栗判官まつり

イベント



中世の「小栗判官伝説」を再現する平成元年に始まった祭り。華麗な戦国絵巻を思わせる武者行列で、馬にまたがった小栗判官が総勢約200名の武者を引き連れ新治駅前を練り歩きます。

ちくせい花火大会

豪華絢爛エンタメ花火!

令和4年からはじまった秋のビックイベント。全編音楽付き、様々な趣向を凝らした演出に合わせ、約2万発の花火が打ち上がる圧倒的な花火エンターテインメントです!見通しが良く、360度どこからでも圧巻の花火を見ることができます。

イベント



あけのひまわりフェスティバル

イベント

名峰・筑波山をバックに「東北八重ひまわり」約100万本が咲き誇ります。この品種は種の部分まで花びらで覆われた珍しいもので、ゴッホの「ひまわり」を彷彿とさせます。ひまわり色に染まる絶景をぜひご覧ください。



坂東市

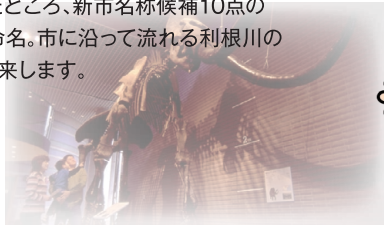
BANDO City

■概要/人口：**52,639人**(令和5年1月時点)

年間観光入込客数：**277,100人**(令和3年)

■由来/新市名称を公募したところ、新市名称候補10点の中から「坂東市」と命名。市に沿って流れる利根川の愛称・坂東太郎に由来します。

■市の花/チャノハナ
木/ケヤキ
鳥/ウグイス



将門くん



茨城県の南西部に位置し、総面積は県土の約2.0%を占めており、区域は東西約12kmで、市全域が首都圏近郊整備地帯に指定されています。自然環境は、南西に利根川、南側に飯沼川、東側に西仁連川などの河川が流れているとともに、南端には、菅生沼があり、野鳥や昆虫などが生息する貴重な水辺が残されています。また、ねぎやレタス、トマト、白菜などが特産品としてあげられます。江戸時代初期から栽培が始まった「さしま茶」は香り豊かなコクのある銘茶として全国に知られています。

観光カレンダー

4月上旬	坂東市逆井城まつり
7月第4金・土曜日	岩井の夏まつり
8月第1土曜日	さしまの夏まつり
11月第2日曜日	坂東市将門まつり

観光交流センター「秀緑」

坂東市に体験工房オープン

旧酒造の大塚酒造を改修し、平成28年11月にグランドオープンしました。施設内には、ガラス・工芸・木工の工房があり、製作体験をしながら学ぶことができます。本蔵・母屋が国の文化財に指定されています。



スポット

ミュージアムパーク 茨城県自然博物館

動く恐竜リニューアルオープン!

生命の誕生から地元茨城の環境、宇宙の進化まで、自然の成り立ちが分かりやすく体験できる見どころ満載の博物館。隕石や恐竜化石などの実験標本や、ジオラマを映像によりわかりやすく展示しています。平成29年3月18日には、動く恐竜がリニューアルされ、最新の情報を盛り込んだ新しい展示を楽しめます。野外施設にも自然が多く、体験しながら自然との共生を学べる施設です。



スポット

平将門

平将門ゆかりの地のひとつ

今から1100年前、坂東は未開の地でした。その荒地に農民たちと取り組んだのが平将門公であったと伝えられています。延命院には、胴塚があり、顕彰碑と東京大手町の首塚より送られた石塔婆が建てられています。



スポット

菅生沼

コハクチョウが飛来する姿は圧巻

県内最大級の自然環境保護区域に指定されている沼。冬季には約300羽のコハクチョウが飛来し、冬を越すために過ごします。



スポット

逆井城跡公園



スポット

逆井城は今から400年以上前の戦国時代末期に後北条氏の関東進出拠点として築城されました。現在もその外堀と土塁が残り、櫓門、橋、堀、主殿、二層櫓は復元され公園になっています。

坂東市将門まつり



イベント

将門まつりは、郷土の英雄「平将門公」の勇姿をよみがえらせようと、昭和47年に始まりました。國王神社の杉並木を、総勢100名の武者が神田明神将門太鼓の勇壮な響きのなか進みます。

坂東市逆井城まつり



イベント

猿島ばやし(県指定無形民俗文化財)などの郷土芸能の演奏、伝承に基づいた「出陣式」や迫力満点の「火縄銃演武」など、様々な催しが逆井城跡公園にて行われます。

さしま茶



グルメ

江戸時代初期から猿島郡にて栽培がはじまりました。安政6年(1859年)には海外に初めて輸出され、生糸と並んで重要な輸出品目に数えられました。今では全国的に知られる香り豊かなコクのある銘茶です。

桜川市

SAKURAGAWA City

■概要/人口: **37,428人** (令和5年1月時点)

年間観光動員数: **146,400人** (令和3年)

■由来/平成17年に、旧岩瀬町・真壁町・大和村の3町村が合併して誕生した桜川市。3町村の中央を流れ霞ヶ浦へ注ぐ「桜川」が、旧岩瀬町を源流として旧大和村から旧真壁町へと南下していたことに由来。

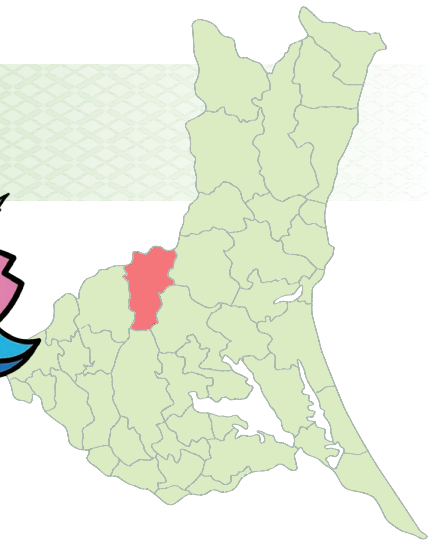
■市の花/ヤマユリ

木/サクラ

鳥/ウグイス



桜川市マスコットキャラクター さくらりん



真壁・大和地区を南北に連なる筑波、足尾、加波山の山塊と、北に栃木県との境を接する高峯、雨巻、富谷山を背景に、山の景色と里山の光景が織りなす自然があふれる地勢が魅力となっています。地域で採出されるみかげ石を利用した石材業も発展。古くから山岳信仰の対象となった山々があり、行基を開基とした富谷観音、マダラ鬼神祭が行われる雨引山楽法寺、禅定の山・加波山神社、椎尾山の中腹にある薬王院などのように国などの重要文化財に指定されている建造物も多く残されています。

観光カレンダー

2月4日~3月3日	真壁のひなまつり
3月上旬~4月下旬	桜川の桜まつり
6月上旬	大和の石まつり
6月10日~7月20日	あじさい祭
7月23日~26日	真壁祇園祭

桜川のサクラ

山桜が国の天然記念物に指定

世阿弥の謡曲「桜川」の舞台にもなった地。11種類の山桜が固有種となっています。その一部が名勝指定区域になっている磯部桜川公園では、約700本の山桜やソメイヨシノが見られます。参道が名勝指定区域の櫻川磯部稲村神社では、地元のボランティアによる桜の案内が行われています。また、この神社には紀貫之の詠んだ歌碑があります。



雨引観音

安産子育ての霊場として広く知られる

厄除延命安産子育ての霊験あらたかな延命観世音菩薩(国指定重要文化財)を本尊佛として祀っています。坂東観音霊場第二十四番札所の名刹として知られます。「一に安産、二に子育て、三に桜の楽法寺」といわれるように、境内や雨引山周辺の山桜は見事です。河津桜という品種もあり、3月上旬頃から桜を楽しむことができます。また、参道には約5,000株のアジサイがあり、6月から7月にかけてあじさい祭りが開催されます。



真壁の町並み

スポット



真壁の町割り、は、戦国時代末期の真壁氏時代に形作られ、江戸時代初期の浅野氏時代に完成したといわれています。現在も約三百数十棟の見世蔵や土蔵・門などの歴史的建造物とその町割りとともに息づいています。

高峯の山桜

スポット



市内の里山には約55万本の山桜が自生しており、特に北部の高峯は屈指の群生地として注目を集めています。野生の桜は一本一本遺伝子が違うため、花の色や形、新芽の色、咲く時期が異なります。こうした多様な山桜の花や新芽の色が、落葉広葉樹の新緑とともに作り出す美しい景観が、桜川市の春を彩ります。

真壁石

スポット



関東の名山、筑波・加波・足尾の三山は良質な花崗岩を産出し、そのふもとにある真壁地区や大和地区の一角は昔から石材の産地として知られてきました。その良質な花崗岩が真壁石です。

地酒

お土産



良質な水と米を使い、各酒蔵がそれぞれこだわりを持って酒造りを行っています。どの蔵でも試飲が可能で、飲み比べをすることもできるのが嬉しいポイント。小売店も多いのも特徴です。

真壁のひなまつり

真壁の町並みとひな祭り

「寒い中、真壁に来てくれる人をもてなそう」という住民の声から始まった真壁のひなまつり。開催当時にひな人形を飾っていたのは21軒でしたが、現在は160軒ほどの民家や商家がお雛様を飾ります。見世蔵、土蔵、門などが軒を連ねる真壁の町並みと、その歴史ある建物の中に代々伝わるお雛様が飾られる風景は懐かしいぬくもりに溢れています。



こだますいか

グルメ



桜川市は、冬から春先にかけて豊富な日照量をいかした「こだますいか」の産地です。県の銘産地に指定されている「こだますいか」は、甘くて美味しいと高い評価を受けています。

酒寄みかん

グルメ



桜川市は、温州みかんの北限地。霜が降りることが少ないといわれる温暖な筑波山の斜面を利用して、10月下旬から12月に酒寄地区のみかん園がオープンします。コクのある甘酸っぱい味をお楽しみください。

八千代町

YACHIYO Town

■概要/人口:**21,187人**(令和5年1月時点)

年間観光入込客数:**33,200人**(令和3年)

■由来/昭和30年に西豊田村、中結城村、安静村、

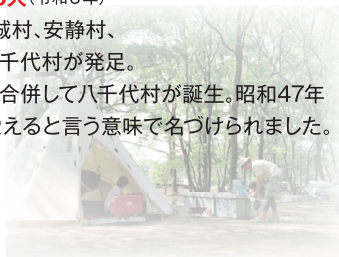
下結城村、川西村が合併し八千代村が発足。

このとき5村と三和村成田が合併して八千代村が誕生。昭和47年町制施行。千代に八千代に栄えると言う意味で名づけられました。

■町の花/菊

木/けやき

鳥/ひばり



八菜丸(はなまる)



関東平野のほぼ中央に位置し、町域全体はほとんどが平坦地です。東に下妻市との境となる鬼怒川が流れ、中央に山川が流れ、町の東半分は水田、西側は畑地が広がっています。県内でも有数の園芸産地であり、中でも白菜は全国第1位の生産量を誇ります。メロンの栽培も盛んで、梨は県の銘柄産地指定を受けています。自然林を生かし、樹木と親しめる八千代グリーンビレッジ憩遊館などの観光施設があります。

観光カレンダー

4月上旬	桜まつり
7月下旬	八千代町夏まつり
11月下旬	八千代の秋まつり

八千代グリーンビレッジ

大自然を満喫できる施設

八千代グリーンビレッジは、自然林を活かした約8haの敷地を持つ農村公園で、公園内には天然温泉「やちよ乃湯」、農産物直売所、レストランが併設された「憩遊館」や、宿泊コテージや常設のバーベキュー場を擁するキャンプ場、芝と林間2種類のコースを持つグラウンドゴルフ場があります。特に天然温泉「やちよ乃湯」は、神経痛、切り傷、やけど、慢性婦人病などに効果があると、大変評判が良い温泉です。



鹿嶋神社



鹿嶋神社の創建は大同元年(806)、藤原音磨が鹿島神宮の分霊を勧請したのが始まりと伝えられています。建物全体に精巧な彫刻が施され、当時の神社建築のすばらしさを見ることができます。町指定有形文化財。

尾崎前山遺跡製鉄炉跡地



製鉄炉等が発見された台地南斜面の部分292㎡の範囲が指定され、現地には、古代の製鉄炉が復元されています。町指定史跡。

旬菜やちよ



地元で採れた新鮮野菜、果物、米、卵、加工品などが並んでいます。メロン・すいか・梨祭り、そして米祭りなどを開催して地元農産物をPRして、消費拡大をしています。

新長谷寺(八町観音)



貞永元年(1232)に結城朝光によって創建されたといわれています。観音堂に安置される木造十一面観音立像は、茨城県の有形文化財に指定されています。

佛性寺



栗山の古堂と呼ばれる地にあったものが、江戸時代に現在地に移建されたと伝えられています。観音堂に安置される木心乾漆如来形坐像は茨城県の有形文化財に指定されています。

八千代町夏まつり



町内各所から集まる山車と神輿の響演をはじめ、ソーラン踊り、ひよっこ、フラダンス、阿波踊り、八千代おどりなど、全世代の町民が一つになってまつりを盛り上げます。

東落田天満社

約200m 続く桜並木は必見

学業成就・子育て・無病息災の神である菅原道真公を祀っており、境内は自然豊かで、県の緑地環境保全地域に指定されています。裏参道には約200m、40本の桜が立ち並び、桜のトンネルとなっています。



筑波流源湖

ヘラブナ釣りのメッカ

水面積が1万坪を超える茨城県で最大のヘラブナ管理釣り場です。浅瀬から深場まで変化に富んだ釣りがお楽しみいただけます。お好みの場所を見つけていただき、ごゆっくりとお楽しみください。



五霞町

GOKA Town

■概要/人口: **8,112人**(令和5年1月時点)

年間観光入込客数: **610,900人**(令和3年)

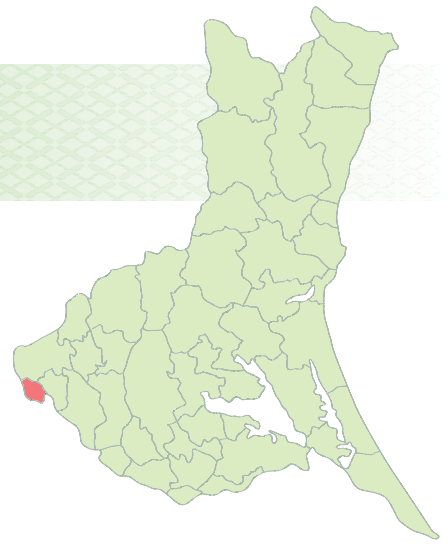
■由来/江戸時代に5つの集落があり、5カ所の村と呼ばれたことから五霞となったといわれており、また、5本の川が流れており、霞が出たことに由来するともいわれています。

■町の花/ばら

木/梅
鳥/ひばり



ごかりん



五霞町は、関東平野のほぼ中央、茨城県の西南端に位置し、首都圏から約50km圏内にあります。東は江戸川を隔てて千葉県。西は、権現堂川および中川を隔てて埼玉県。北東部に流れる利根川を挟んで古河市・境町に接し、四方を河川に囲まれた水と緑豊かな街です。町内のほぼ中央には新4号国道が縦断し、圏央道(五霞IC)が開通され、利便性が高くなりました。川にまつわる歴史や縄文時代に端を発する文化財、自然風景や五霞町産の食材などにふれ、ゆっくり五霞町の魅力を満喫してみてください。

観光カレンダー

3月下旬~4月上旬	桜(茨城県ヘルスロード)
3月下旬~4月上旬	OHANAMIごかマルシェ
6月~7月	ハクレンのジャンプ
9月中旬	ごかマルシェ(利根川大花火大会)
11月上旬	五霞ふれあい祭り・五霞町健康福祉まつり
12月下旬	クリスマスイベント

Street sports park GOKA

令和4年10月にリニューアル

道の駅ごかの北側にある調整池内に整備されたスケートボードエリア、スラックラインエリア、バスケットボールエリア(3×3)が誰でも無料で利用できます。



工場見学

楽しくてためになる人気の工場

キュービー(株)五霞工場/マヨネーズのヒミツについての説明、マヨネーズ・ドレッシングの製造ラインや割卵の工程を案内してくれます。

(株)ヤクルト本社茨城工場/小さなお子さまから大人の方までヤクルトのおいしさや体にいい秘密、ヤクルトの歴史などを工場見学とおして楽しみながら学べます。

(株)染めQテクノロジー/会社見学や“染めQエアゾール”による作品作り体験をとおして、「不思議・ワクワク・感動」を体験できます。



ラジコンパーク Goka

令和5年4月にオープン

誰でも無料で利用できる屋外のラジコンコースとなっています。初心者コース、オフロードカー用コース、ドリフトコース、オンロードコースの4つがあります。



利根川のハクレンジャンプ

水面に輝く夏の風物詩

ハクレンは中国原産のコイ科の淡水魚で、ハクレンの仲間にはソウギョ・アオウオ・コクレンがいます。この4種の魚は、いずれも体長が1mほどになり、毎年産卵期の6月~7月頃に見られる、巨大な魚体が何十何百と競うように飛び跳ねる様子は圧巻です。日本でハクレンの自然繁殖が確認できるのは唯一、利根川だけといわれています。



五霞ふれあい祭り・五霞町健康福祉まつり



「食・健康・福祉」をテーマに、見て・食べて・楽しめる参加体験型のお祭りです。住民相互のふれあいと地域活性化を目的として毎年秋に開催しているイベントです。

五霞米みそ



五霞町産の美味しいお米(コシヒカリ)と大豆を使い、原料は全て国産を使用したお味噌です。自然の風味を保つため食品添加物・防腐剤を一切使用せず、手作りしています。甘みがありマイルドな味わいのお味噌です。

ジェラート

五霞町産食材を使用したジェラートをカップに詰めました。現在8種類(かぼちゃ・コシヒカリ・さつまいも・はちみつレモン・とうもろこし・ミルク・あずきミルク・にんじん)を道の駅ごかで販売しています。五霞町産食材にこだわり、旬の時々製造しているジェラートは、カップのためお持ち帰りやお土産にもおすすめです。



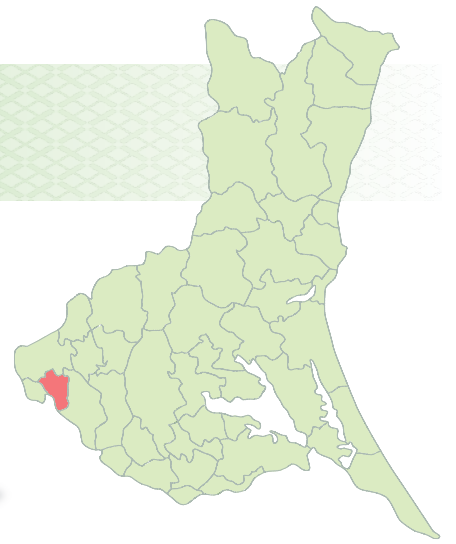
境町

SAKAI Town

- 概要/人口: **23,930人**(令和5年1月時点)
年間観光入込客数: **398,400人**(令和3年)
- 由来/江戸時代に誕生。境界線を意味する境を町名に使用。
- 町の花/カンナ
木/もくせい



サカイタチ



五霞町、千葉県野田市と利根川を挟んで相対し、水と緑の豊かな田園都市の景観を誇っています。雄大な利根川沿いには堤防を利用した利根渡良瀬サイクリングコースが設けられ、サイクリングやジョギング、ウォーキングなどを楽しむことができます。境河岸から見る富士山は、国土交通省の「関東の富士見百景」にも選定されています。町内には縄文時代などの古墳や貝塚などの古代の遺跡も多く残されており、歴史民俗資料館では、町の歴史や風習などを知ることができます。

観光カレンダー

1月上旬	境達磨市
4月中旬	さかい河岸フェスティバル
7月下旬	歩行者天国祭り
8月	利根川いかだレース選手権
9月中旬	利根川大花火大会

利根川大花火大会

打ち上げ数約30,000発と日本最大級の花火大会です。4大花火師による尺玉やスターメイン、音楽花火は感動です。



イベント

モンテネグロ会館



スポット

隈研吾氏が設計した本館は、1937年にアルゼンチンのモンテネグロ臨時大使の援助により建設。2019年に建替えをし、チャレンジショップなどで活用しています。

沖縄県国頭村公設市場



スポット

「道の駅さかい」が友好交流協定を締結している沖縄県国頭村「道の駅ゆいゆい国頭」のアンテナショップ「沖縄県国頭村公設市場」がオープン。

S-start up



スポット

チャレンジキッチン2店舗、シェアオフィス2部屋を備えた、境町創業支援センター「S-start up」。創業第1号店は、鶏そば「山田屋」。

S-gallery



スポット

境町にゆかりのある日本画家「肅黎寶(しゅくさんぼう)」の作品などを展示する美術館。設計は隈研吾建築都市設計事務所。

さかいサンド

境町産の小麦粉「ゆめかおり」や地元産野菜等を使用し、境町の美味しいものを丸ごとサンドしました。具たくさんボリューム満点サンドは毎朝手づくり。なくなり次第終了なのでお早めに!



グルメ

富士見百景



スポット

利根川河川敷にある境河岸は、「富士山と城と川」を撮影できる場所として、関東の富士見百景の一つとして指定を受けた絶好の撮影ポイントです。

観光情報発信施設



スポット

町と株式会社坂東太郎の連携により「8代葵カフェハワイ境店」が来店。店内には地場産品の直売所やハワイ産品の直売所、移住定住情報などを提供する街の魅力PRブースも備えています。

道の駅さかい SHED



グルメ

厳選された食料品や調味料、調理器具などを販売しています。こだわりを形にした空間で、お食事やお買い物をお楽しみください。

SAKAITEPPAN by Wolfgang Zwiener



グルメ

北関東初! ウルフギャングが境町に新店! 地元で採れた新鮮野菜はもちろん、厳選された食材を贅沢に使用。一口食べれば思わず笑みが溢れるような、鮮烈なメニューをご用意しています。

県西地域周遊コース



- 1 ミュージアムパーク
茨城県自然博物館
＜坂東市＞



- 2 古河の七福カレーめん
＜古河市＞



- 3 鷹見泉石記念館
＜古河市＞

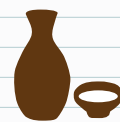


- 4 つむぎの館
＜結城市＞



茨城県の豆知識⑤

『茨城の地酒』



茨城には個性ある地酒が豊富にあり、35の酒蔵を有する関東屈指の酒どころです。茨城の酒造用水は、5つの水系に分類できます。八溝山麓を源に日立市で太平洋に注ぐ久慈川水系、那須岳を源にひたちなか市と大洗町の間で太平洋に注ぐ那珂川水系。筑波山を中心として笠間・岩瀬盆地以南の筑波山水系。県南部の利根川水系。さらに、利根川の支流ながら、県西の酒造り地域をめぐる鬼怒川水系の5つです。

独立行政法人酒類総合研究所と日本酒造組合中央会の共催による「令和4酒造年度 全国新酒鑑評会」において、茨城県では右表のとおり10点が入賞酒に選ばれ、うち4点が金賞を獲得しました。

☆=金賞酒

酒造場名	銘柄	市町村名
(資)浦里酒造店	☆霧筑波	つくば市
稲葉酒造	すてら	つくば市
青木酒造(株)	☆御慶事	古河市
(株)武勇	武勇	結城市
明利酒類(株)	☆副將軍	水戸市
木内酒造(資)	菊盛	那珂市
(資)廣瀬商店	☆白菊	石岡市
(資)椎名酒造店	富久心	日立市
森島酒造(株)	富士大観	日立市
野村醸造(株)	純美人	常総市

(※令和5年5月現在)